

TIMS SEMINER

題目： ゲノム情報の使い方が創薬研究の進め方と
成果を規定する-核酸創薬を事例に

講師： 東京工業大学大学院理工学研究科
特任教授 名取幸和博士

日時： 10月5日(月) 18:00-19:30

場所： 総合研究棟B 0510-2教室



講演概要

98年にFire, Mellow両博士により発見されたRNAiはアンチセンス、リボザイム等に比べ1000以下の濃度で効果を示すことから核酸創薬研究の本命として大競争となっている。

Web of Scienceによれば、これまでにRNAi+Therapyのキーワードで抽出される論文数は1500報を超えている。しかしながら、多くの論文は功名を焦るあまり、選択するsiRNA配列に注意が払われてこなかった。標的遺伝子が明確であるにも拘らず、siRNA配列の拙さから核酸創薬のハードルを乗り越えることが出来ていない。東京医科歯科大学の大和建嗣博士等のグループは、東京大学の西郷薫教授、程久美子准教授等の分子生物学的RNAi基礎研究の成果に基づきゲノムインフォマティクス技術とWet研究を融合した核酸(RNAi)創薬基礎研究の基盤を構築してきた。ゲノム情報活用の良否が創薬研究の成否を決めると言っても過言ではない。大和健嗣博士等の研究成果を事例に創薬研究のあり方について研究者の皆様と討議したい。